



## 小中一貫教育だより

平成27年 6月30日 No.15  
(小中一貫教育推進だよりから 通算No.50)  
十日町市教育委員会学校教育課

# 何を学ぶか、何を得るか、どう歩み始めるか



1日異校種体験研修で 教師としての新たな視点を

学校教育課小中一貫教育係嘱託指導主事 丸山 公一

「9年間を共通したカリキュラムで学ぶ小中一貫校を国の制度に位置付ける改正学校教育法が、6月17日、参院本会議で成立した」と報道されました。小中一貫教育に関わる制度、動きは確実に新しい段階に向かっているのではないのでしょうか。

十日町市でも、小中一貫教育のさらなる推進に、今年度より「1日異校種体験研修」を始めました。すでに6月中にも、6中学校区で12人の研修実施者があり、小学校教諭が中学校へ、中学校教諭が小学校へ、「1日研修」を体験しています。



6月11日(木)南中学校K教諭が西小学校へ1日研修に入りました。K教諭は中学校体育が専門です。そのK教諭

が、小学校4年生の音楽の授業にTT指導を行いました。担任のW教諭のピアノ伴奏に合せ、大きな体の背中をちょっと丸めながら、小さな小学校4年生とジャンケン列車をしてリズムをとりながら、音楽室を飛び回りました。多分、K教諭にとっては、中学校体育の指導では味わうことのできない感覚の体験だったのではないかと思います。それを実感するのも、異校種を体験する大きな効果ではないのでしょうか。K教諭の満面の笑みと額に流れる汗が印象的でした。



6月6日(火)水沢小学校Y教諭が、水沢中学校で1日研修を行いました。Y教諭は、自ら進んで3年数学の授業を行いました。それも単発的な指導内容でなく、指導計画の中の1時間「有理数と無理数」の指導を行いました。分かり易く、3年生も飽きさせない授業でした。

教科担当の中学校S教諭も、授業の内容が全て見える板書の工夫、分類や位置関係が視覚的に理解できる教材教具の作成、選択させながら回答を求める学習者への配慮など、その授業スタイルに得るものが多く中学校でも参考にしたい、と話をしていました。このような異校種体験研修は、小中全体の教職員の授業改善に関わって、有意義な取組になるのではないかと思います。

また、研修者所属校長からは、「乗り入れ授業実施のために、事前の準備を念入りしており、小中一貫教育を積極的に推進しようとする姿があった。小学校を体験したことで、児童の学びの姿が分かり今後の実践に生かせる。若い教員がこのような経験をできたことは大変有意義だった。」

研修実施者からは、「中学校の清掃や給食の時間が小学校と比べて短い、集中して行うため、全校がテキパキと行動しており一体感を感じた。1年後の姿として足りない部分や、学校生活の違いを児童に伝えることができるので、準備ができる。早い時期に研修して非常に参考になった。」などの報告がありました。

1日異校種体験研修は始まったばかりです。どのような実施の体制づくりや研修内容の工夫があるか、どのような成果があるかなど、今後研修を積み重ねていく中で新たな発見があるものと思われます。小中一貫教育の観点からの異校種体験研修なので、いじめ防止や不登校対策、特別支援教育、キャリア教育、道徳教育等で関わることも今後視野に入れて欲しいと思います。

## 資料 6月18日の読売新聞の記事

### 「小中一貫校設置柔軟に」 「学力や不登校対策に有効」

小中一貫校を制度化する改正学校教育法などが、17日参院本会議で可決、成立した。小中一貫校は学力向上や不登校対策に有効とされるが、特例で認められている学校は224校（全体の2％）に過ぎない。

2016年4月の改正法施行後は、自治体や学校法人の判断で、小中一貫校が設置できるようになり開設が進みそうだ。

## 「官庁速報より」

### ◎経過措置、いつまで＝文部科学省

小中一貫校を制度化する改正学校教育法が先週成立した。小中学校の義務教育9年間を一体的なカリキュラムで学ぶことが可能で、従来の「6・3」制だけでなく、「4・3・2」「5・4」などの変更を自治体の判断で柔軟にできるようにした。

初等中等教育局は今後、具体的な制度設計に加え、先進事例集を作成するなど、制度の普及に向けた取り組みも同時に進めるといふ。既に小中一貫教育を行っている学校を対象に昨年実施したアンケートでは、中学進学時の環境変化に対応できない「中1ギャップ」の解消に効果があったという結果が出ており、同局幹部は「中1ギャップの緩和だけでなく、教職員の意識向上などさまざまな成果が出ている」と強調する。

一方、課題となっているのは教職員の多忙化と教員免許の問題。免許に関しては原則として小中両方の免許が必要とされているが両資格を保有している教職員の割合は地域によってばらつきがあるのが現状だ。当面はどちらか一方の免許でも対応できる経過措置を設けているが、ある官房幹部は「教員数をいきなり増やすことはできないので経過措置はやむを得ない。“当面”がいつまでも続かなければいいが・・・」とぼやいていた。

（2015年6月22日／官庁速報）

### ◎特例措置、具体案作りへ＝小中一貫の制度化受け＝文部科学省

文部科学省は、小中一貫校の制度化を柱とする改正学校教育法の成立を受け、一貫校で可能となる授業内容の前倒しといった特例措置の具体案作りに着手した。年内にも省令改正しその内容や基準、留意事項などを示す。併せて制度の普及・拡大に向け、一貫校の優れた取り組みをまとめた事例集や一貫校を評価する際の目安となる指標を作成する方針だ。

改正法は来年4月に施行される。新たに位置付けられた小中一貫校の名称は「義務教育学校」とし義務教育の9年間を一体的なカリキュラムで学ぶことが可能。地域の実情に応じ、従来の「6・3」制に限らず、「4・3・2」「5・4」などと柔軟に変更できるようになる。校長は1人で、教員は原則として小中両方の免許が必要だ。

小中一貫教育は既に一部の地方自治体が実施しているが、学習指導要領で定める範囲を超えて前倒して授業を行う際などには、文科省への申請が必要だった。今後はこうした申請が不要になるため、省令で小中間での授業内容の入れ替えや新教科の創設など、義務教育学校で導入可能な措置の内容を具体的に提示。加えて「児童生徒に過重な負担とならないようにする」といった留意事項を定める。

自治体が義務教育学校とは別に、校長や教員が別々の小中学校を一貫化する「小中一貫型小学校・中学校」を創設する場合には、「学校間の調整を行う担当者の任命」「教育課程の系統性確保」などの事項を要件とする方針。これらも年内に省令で示す。

制度導入に向けた支援としては、学校施設の形態や学校規模、教育内容に応じた先進事例集を年内にも作成。さらには、9年間を通じたカリキュラムや目標設定といった教育内容に対する評価指標をまとめ、各校の自己評価や教育委員会による指導に活用してもらう。

この他、自治体を対象にした説明会を計画。地域ブロック単位で8月以降に順次開催し、制度の概要や先進事例を紹介する。

（2015年6月22日／官庁速報）

# 教育センターより

## 放課後寺子屋塾事業

退職教員やボランティア等の地域の教育力を活用し、子どもたちの学びの環境を整備し、自主的な学習を支援します。

名 称	対 象	内 容	開設数
ほうかご寺子屋塾	小学生	テキスト、宿題、自主学習など	19カ所
放課後寺子屋塾	中学生	数学や英語のテキスト	7カ所
土曜英会話寺子屋塾	小・中学生	A L T、J F Aによる実践的な英会話	5教室
夏休み寺子屋塾	小・中学生	公民館と連携した学びの場の提供	未 定

小学校は、市内のすべての学校で「ほうかご寺子屋塾」が開設され、446人の児童が学んでいます。中学校では昨年の4中学校から7中学校に増え、十日町中学校ではすでに開塾されています。また、土曜英会話寺子屋塾は、新潟県の土曜学習モデル事業の指定を受け、6月27日からスタートします。

この寺子屋塾事業を通して、「主体的に学ぶ態度」「自律的な態度」「粘り強く挑戦する態度」を十日町の子どもたちに育てていきます。

# 生徒指導コラム

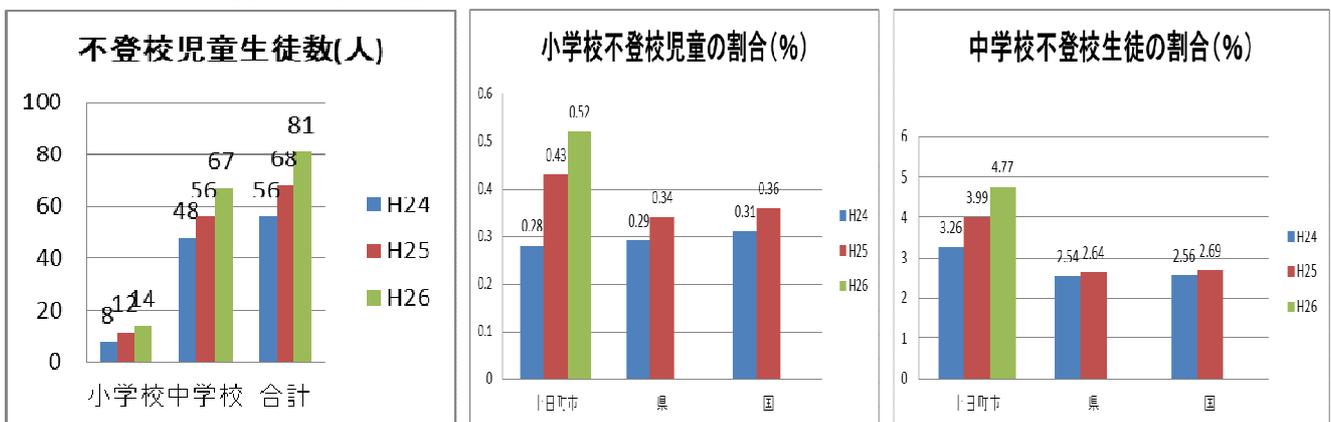
## 十日町市小中学校の不登校の現状と課題

### 1. 現状

平成26年度の市内の不登校児童生徒数（年間30日以上不登校による欠席児童生徒数）は、平成25年度に比し、小学校では2人増の14人(0.52%)、中学校では、11人増の67人(4.77%)となり、厳しい状況にあります。小・中学校とも県と全国の平均を上回っています。特に中学校は、県内20市の中で2番目に不登校の割合が高い状況です。

不登校のきっかけは、小学校では情緒的混乱や親子関係に起因するものが多く、中学校では、情緒的混乱、無気力、病気、学業不振等が多くなっています。また、家庭に起因する問題や発達障がい等における二次障がいと考えられる要因も多くなっています。

(H26年度は、速報値)



## 2. 課題

- (1) 家庭、地域と連携し、児童生徒の存在感や自己肯定感、社会的スキルを高める社会性の育成を図ることが必要です。
- (2) 不登校の兆候が見られた初期段階で、学校全体の組織としての適切な対応を一層検討する必要があります。
- (3) 各校における不登校にかかわる取組を評価し、課題を明確にした上で、取組を具体化するための校内の組織力や教員の資質向上を図る研修が必要です。
- (4) 家庭環境に起因するものや発達障がい等の二次障がいと考えられるものも多いため、小・中学校間や家庭、相談・医療機関と連携して総合的なサポートをしていくことが必要です。

**不登校児童生徒数の減少は、小中一貫教育の最重要課題です。全教職員が現状を把握し、一丸となってその解決に取り組むことが求められています。**

+++++

7月15日(水)に、「小中一貫教育連絡協議会」を行います。

## ■中学校区の取組紹介(6月~7月)

中学校区名	6月の取組	7月の取組予定
<b>拡大中学校区</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月16日(火)~18日(木) 第2回あいさつ運動 中学2年生が、出身小学校に出向いて行いました。</li> <li>■ 6月22日(月) 市教委計画訪問で小中一貫推進会議、中越計画訪問で公開授業、研究協議会(55人参加)を行いました。その後、学区教職員86名で親睦・結束の会を行いました。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 7月7日(火)~9日(木) 第3回あいさつ運動 
<b>南 中学校区</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月5日(金) 第1回教職員協議会</li> <li>■ 6月5日(金) 学校・PTA懇談会</li> <li>■ 6月22日(月) 中学校区教職員研究協議会</li> </ul> 	<input type="checkbox"/> 7月7日(火) 中学校区小中生徒指導連絡班 13:45~南中学校 中学校入学生の情報交換
<b>吉田中学校区</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月9日(火) 地区PTA連絡協議会(ネット使用に関する調査の実施についての協議)</li> <li>■ 6月11日(木) 異校種体験研修(吉田小→吉田中)</li> <li>■ 6月18日(木) 小中合同授業研究</li> <li>■ 6月25日(木) 異校種体験研修(鑑島小→吉田中)</li> <li>■ 6月26日(金) 中学校区生徒指導委員会</li> <li>■ 6月26日(金) 地区PTA連絡協議会(ネット使用調査結果の検討、指導方針の決定)</li> <li>■ 6月30日(火) 異校種体験研修(吉田中→吉田小)</li> <li>■ 6月30日(火) 異校種体験研修(吉田中→鑑島小)</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 7月18日(土) 地区PTA講演会「ネットモラルセミナー」 吉田中学校 
<b>下条中学校区</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月12日(金) 中越計画訪問で、教職員研修として下条小学校で授業公開および研究協議会を行った。</li> </ul> 	<input type="checkbox"/> 7月23日(木) 小中合同職員会議・市教委訪問 13:00~下条中学校
<b>水沢中学校区</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月8日(月) 生活習慣アンケート実施 ~12日</li> <li>■ 6月9日(火) 異校種体験研修(水沢小→水沢中)</li> <li>■ 6月15日(月) 元気アップ週間①</li> <li>■ 6月18日(木) 授業公開・研究協議会(水沢小)</li> <li>■ 6月18日(木) 小中あいさつ交流事前説明会</li> <li>■ 6月23日(火) 小中あいさつ交流~26日</li> <li>■ 6月26日(金) 異校種体験研修(馬場小→水沢中)</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 7月3日(金) 第2回進学指導委員会 <input type="checkbox"/> 7月29日(水) 水沢地区教職員研修会=3部会の進捗状況の確認、グランドデザインの検討、8月全員研修の発表内容についての検討

<p><b>川西中学校区</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月 5日 (金) なかよし集会②</li> <li>■ 6月 8日 (月) メディアコントロール講演会 「情報メディアと生活習慣」上教大石野教授 小学校5・6年生と中学生合同の研修</li> <li>■ 6月 8日 (月)～15日 (月) 家庭学習強調週間①</li> <li>■ 6月 11日 (木)～12 (金) 3小学校合同修学旅行</li> <li>■ 6月 17日 (水) 中学校区計画訪問 橘小</li> <li>■ 6月 18日 (木)～19 (金) 白倉キャンプ</li> <li>■ 6月 19日 (金) 異校種体験研修 (小養護教諭→中)</li> <li>■ 6月 19日 (金) なかよし集会③橘小</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 7月 24日 (金) 川西地区小学校親善水泳大会、中学生が運営のお手伝いをします。</li> <li>□ 7月 27日 (月)～30日 (木) 夏休み補充学習 (中学1年) 小中の職員で学習支援をする。</li> </ul>
<p><b>中里中学校区</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●別枠「トピックス」で紹介します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 7月 2日 (木)～5日 (日) なかさと交流・沖縄県久米島訪問</li> <li>□ 7月 7日 (火) 巨大書体験②</li> </ul>
<p><b>松代中学校区</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●別枠「トピックス」で紹介します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 7月 6日 (月) 松代小授業研究 2年国語、中学校職員も1名参加</li> </ul>
<p><b>松之山中学校区</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6月 9日 (火) 授業公開 (中学校理科) 協議会 3部会打合せ</li> <li>■ 6月 26日 (金) 異校種体験研修 (小→松之山中)</li> <li>■ 6月 30日 (火) 異校種体験研修 (中→松之山小)</li> <li>■ 6月中あいさつ標語の募集</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>異校種体験授業 「あじの解剖」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 7月 3日 (金) 長縄跳び大会 松之山地区主催で、小・中・高校生、保護者・一般参加の大会です。</li> <li>□ 7月 13日 (火) 異校種体験研修 小学校教諭→松之山中学校 中学校教諭→松之山小学校</li> <li>□ 7月 17日 (金) 異校種体験研修 小学校教諭→松之山中学校</li> <li>□ 7月 25日 (土) 湯鳥大運動会</li> <li>□ 7月中「あいさつ標語」の優秀作品展示</li> </ul>

## ●トピックス

中学校区の取組紹介として、今回は特に「**中里中学校区**」と「**松代中学校区**」を詳しく紹介します。

<p><b>中里中学校区</b> (田沢小学校、倉俣小学校、貝野小学校、中里中学校)</p> <p>統括コーディネーター 川尻 優 (田沢小学校教頭)</p>	
<p>1 「あいさつ強調月間」の取組 (各学校)</p> <p>(1) 中里地区全戸にポスター配布</p> <p>(2) 地域へののぼり旗の設置 (マンネリ化の防止・旗の劣化防止のために、強調月間の6・10月のみ設置することとしました。)</p>	
<p>2 小中連携道徳「あこがれの先輩」(6/3: なかさとアリーナ)</p> <p>なかさとアリーナで行われた郡市バスケットボール大会の決勝戦まで進んだ中里中学校の試合を、田沢小学校5年生が応援観戦しました。初めて観る中学生の試合。白熱した試合、先輩たちの真剣な表情、きびきびした動きに圧倒されつつ、先輩たちに熱い声援を送りました。声援が通じたのか、見事に優勝し感動のひとときを過ごすことができました。観戦後の振り返りからも、多くの子どもたちが中学生に対するあこがれを強くしたことを記していました。</p>	
<p>3 中里っ子チャレンジウィーク (6/8～6/12: 各学校)</p> <p>中里地区の保育園年長園児・全小学生児童・中学生徒全員が、生活習慣を向上させるため、以下の内容について共通のカードを用いて取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ご飯</li> <li>・家庭学習時間 (小・中学生)</li> <li>・テレビを見た時間</li> <li>・ゲームや携帯、インターネットの時間</li> <li>・早寝早起き</li> </ul>	

#### 4 南極クラス (6/17: 田沢小)

田沢小 4～6 年生、倉俣小 5・6 年生が参加。

南極基地滞在経験がある井熊英治さんを講師に迎え、南極での貴重な体験を聞かせていただきました。楽しい講話だけでなく、南極の氷に触ったり、風速 60m の風の強さを体感したり、南極に棲む動物の貴重な映像を観たりと、楽しい 2 時間を送ることができました。講演を通して、夢をもって生きることの大切さ、様々な思いをもった人々との交流の素晴らしさを学ぶことができました。



#### 5 巨大書に挑戦 (6/24: 田沢小)

集合学習、小小交流として田沢小・貝野小・倉俣小 6 年生児童が参加。

長岡市在住の書家・篆刻家の柳澤魁秀さんを講師に迎え、本物の芸術に触れる機会を通して、子どもたちの夢に向かう力を育むことをねらいに実施します。初回の 6/24 は、クイズ形式で漢字の歴史や成り立ち等について教えていただき、漢字への興味を深めてもらいました。

「次回 (7/7) は実際に巨大書に挑戦するので、書きたい漢字一文字を考えておく」という課題に対しても、子どもたちは意欲的に受け止めることができました。



#### 6 小学 1 年生集合学習「風車を作って遊ぼう！」(6/25: 貝野小)

貝野小・倉俣小・田沢小 1 年生が参加。

「大地の芸術祭作品制作ワークショップ」と連携しての活動。

妻有地域で採集した植物（押し花状のもの）を思い思いに配置してラミネート加工し、植物を封印したフィルムを作る。そのフィルムを切って風車を作り、できあがった風車で遊ぶ。

### 松代中学校区 (松代小学校、松代中学校)

統括コーディネーター 太島 誠 (松代中学校教頭)

5 月 31 日 (日) 松代小学校運動会

【内容】中学生の競技参加 (① P T A 種目「玉入れリレー」、② 児童と教職員、P T A、中学生対抗リレー)

午後は、小学生のマーチングバンドの発表から始まりました。保護者だけでなく多くの中学生が訪れ、その演奏と息のあった動きのすばらしさに拍手を送っていました。その後、中学生も参加した交流競技が行われ、大いに盛り上がりました。



6 月 18 日 (木) 中学校区計画訪問 (会場: 松代中学校)

【内容】 6 限研究授業 (2 年生理科)、研究協議会

【参加者】松代保育園、松代小、松代高校、松之山小、松之山中  
隣接の松之山中中学校区の参加者も含め、研究授業のあとで、高めたい学力についての効果的な指導方法をテーマにグループ協議等を行いました。

11 月にも松代小学校を会場に、同様の研究協議会を開催します。



6 月 22 日 (月) 松代小学校研究授業 3 年生「国語」 中学校職員 1 人参加

6 月 25 日 (木) 小中合同講演会「ようこそ先輩 (獣医師 丸山 知美さん)」

【内容】講話及び上映会「夢は牛のお医者さん」

【会場】会場: まっだいふるさと会館

午前; 小学校 1～4 年生 午後; 小学校 5・6 年生、中学生



6 月 29 日 (月)

(1) 松代中学校研究授業 2 年生「保健体育」 小学校職員参加

(2) 松代中学校異校種体験研修 (松代小学校職員 1 人)

【内容】「学級担任、教科担任、部活動顧問」として、中学校教諭の標準的な 1 日の業務体験から、主に生徒との関わり方について研修します。1 年生社会科「歴史」のメインティーチャーとして、授業も行います。